浦山川小水力発電所事業性評価調査事業

1. 事業の目的

四国中央市の浦山川における小水力発電開発を計画しており、事業化に向けた事業性評価を行うために、地質調査、地形測量、流量調査、維持流量観測（令和４年度）を実施した。

2. 事業の内容

（1） 事業者名
Daigas エナジー株式会社

（2） 補助事業の名称
浦山川小水力発電所事業性評価調査事業

（3） 事業期間
令和５年５月 22 日 ～ 令和６年２月 22 日（全体 令和４年 10 月 24 日 ～ 令和６年２月 22 日）

（4） 調査を実施する発電設備の概要
a.発電形式 ： 水路式
b.使用水量 ： 0.69m3/s
c.有効落差 ： 171m
d.出　　力 ： 975kW

3. 令和5年度の事業実施概要

① 地質調査（令和５年度）
取水地点、発電所地点についてそれぞれ２地点ボーリング調査を行い、地質の確認を行なった。

② 地形測量（令和４年度・令和５年度）
令和４年度は基準点測量、水準測量、現地測量を行なった。令和５年度は取水地点、発電所地点、水圧管ルートについて、路線測量と用地測量を行い地形を確認した。

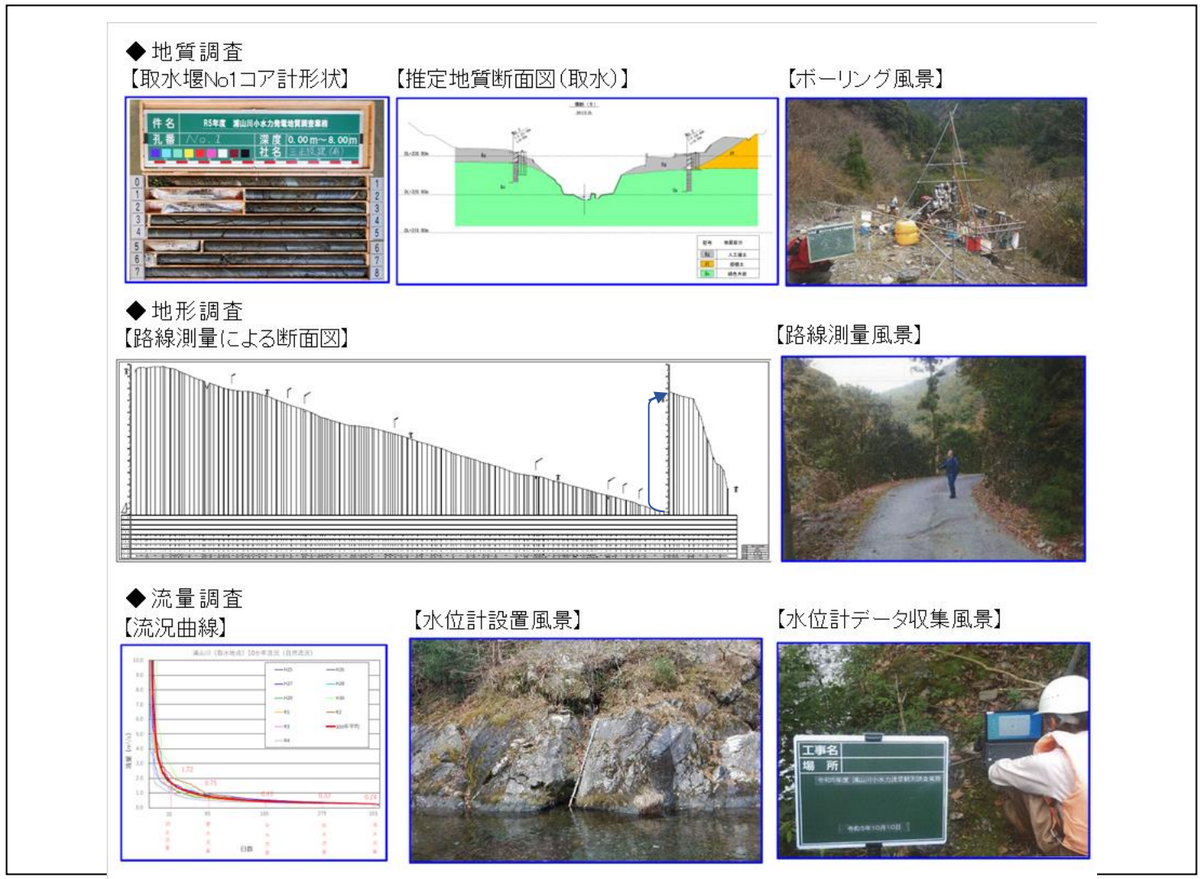
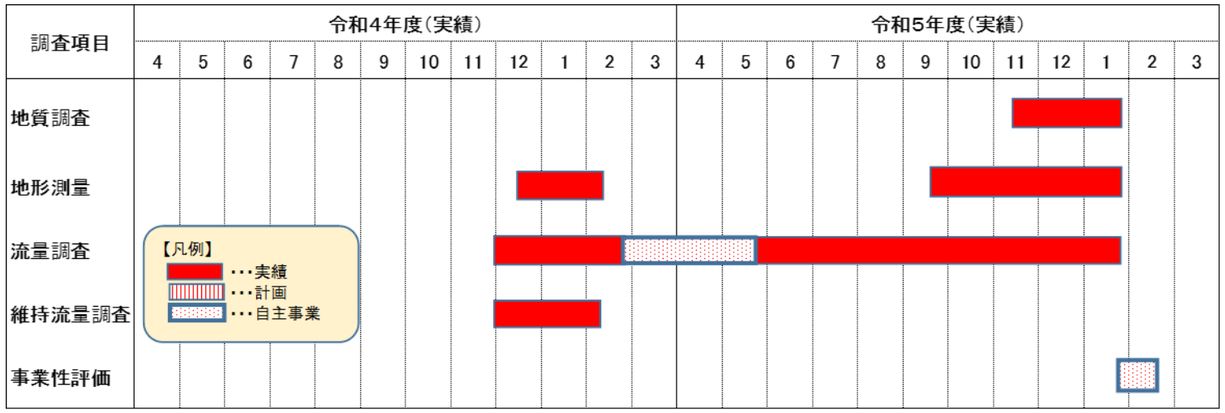
③ 流量調査（令和４年度・令和５年度）
令和４年度に設置した水位計により１年間の水位データを計測した。令和４年度に実施した流量観測（4回）で作成した H-Q 線図を用いて、近傍ダムとの相関関係を確認し、過去 10 年間のダムデータから浦山川の流況曲線を作成し、流量の確認を行なった。

④維持流量調査（令和４年度）
維持流量調査を行い、必要維持流量を確認した。

4. 事業の成果等

流量調査により、過去10ヵ年分の流況曲線が作成でき、維持流量を考慮して最大使用水量が 0.69m3/s とわかった。また、地質調査により、取水地点、発電所地点の最適な位置がわかり、路線測量により総落差 181m、有効落差 171mであることがわかった。この条件で FS を実施し、事業性があることを確認した。

① 当該地点の事業化の展望や可能性の見通し・・・事業費を抑え、地元関係者の同意を取って事業化予定。
② 当該地点の水力発電の事業性の有無・・・・・・・・小水力発電の事業性あり。



5. 事業スケジュール